

5Sから始める中小企業の組織活性化術

第9回 「5S活動」は「利益」と直結する

「一元を拾う」「一元を落とさない」

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰(しつけ)」という5つの要素を組み合わせた「5S活動」について説明してきました。「5S活動」は単なる片づけではなく、組織としての「仕組み(システム)」である、という話です。第一回目の連載では～この活動は「手順」を間違えなければ、組織の「体質」を変え、同時に「利益」まで変えてしまいます～と書きました。組織にとって重要な「利益」は、実は目の前にあります。「利益」とは、売上から支払いを済ませ、残った金額のことですが、利益を出している組織はそのプロセスの中で、「一元を拾う」「一元を落とさない」ということに長けています。緊張感を持って仕事や業務を行っているのでロスが少ないのです。

実は「5S活動」の仕組みを作り上げ、その仕組みをきちんとまわすことにより、組織の緊張感を高めることが可能です。

「限界利益管理」との親和性

企業組織の利益の考え方にはいろいろなものがありますが、もっともシンプルな考え方に「限界利益」というものがあります。

組織には「仕事があってもなくても絶対に必要な金額」というものがあります。例えば人件費はもっとも分かりやすい費用でしょうか。同じように、土地建物代、光熱費、車両に関する車検や保険費用、毎月のリース費用、一般管理費の多くのものは、仕事の有無(売上の有無)にかかわらず組織にとっては絶対に必要な金額です。その金額に金融機関からの借入の返済金額、及び予定納税の金額を足します。

少し頭を柔らかくして考えてもらおうと、その金額の「総額」を組織全体で集めてしまうと、企業は絶対につぶれません。企業が倒産する理由は、売り上げ不振や利益圧迫などさまざまな要因が重なりますが、逆に考えればこの「限界利益」を集め切れなかったからという一点に帰結します。そうすると、組織の存続を図るためには「全社一丸」となって「一元を拾い」「一元を落とさない」ということに集中する必要があります。

「5S活動」の最大効果

「5S活動」の最大の特徴は「全社一丸」ということにありま

す。そして、組織の目的は「存続」すること、すなわち「限界利益の獲得」にあります。

- ①「整理」・・・組織の中に無駄なものがない
- ②「整頓」・・・働きやすい環境がある
- ③「清掃」・・・日々、点検保守が行われている
- ④「清潔」・・・顧客のニーズを満たしている
- ⑤「しつけ」・・・他社より卓越している

組織の中の「弱点」を「5S活動」によってつぶし、何よりも「緊張感」をもって「全社一丸体制」を築ければ、今より利益は多く獲得することが出来ますし、不振を続ける売上すら改善させることが出来ます。

「限界利益」と「経営計画」

「限界利益」についての金額は、残念なことに「決算書」の中には直接書かれていません。これは、経営者自らが自分自身の体を点検するように、自ら支出項目や支出金額を確認することからしか把握できません。これはある意味「経営計画」の第一歩なのです。そして、この金額を確定させることが出来れば、組織全体にこう問いかけることが出来ます。

「弊社では、仕事があってもなくてもこの金額が絶対に必要だ！だから今度から……」

「限界利益」の考え方は、弊社HP、弊社発行「チャレンジ5S改善マニュアル」「改善DVD」で詳細に事例解説しています。是非参考にしてください。

